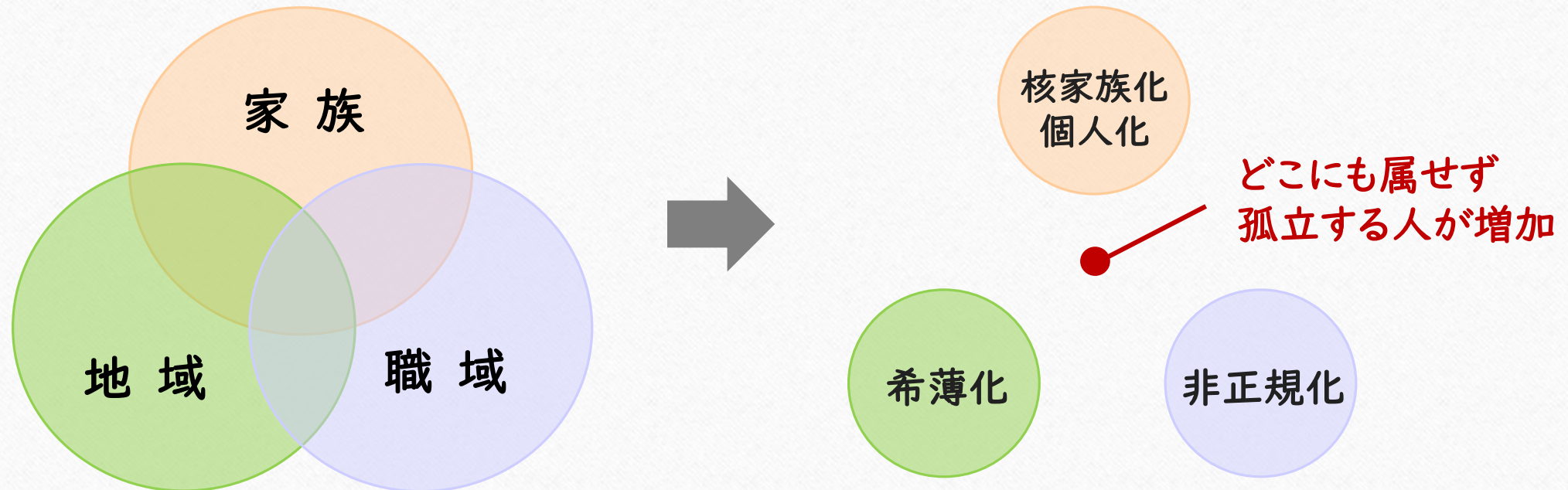


鈴鹿市の重層的支援 体制整備事業について

重層的支援体制整備事業の背景

「生きづらさ」を感じる人の増加

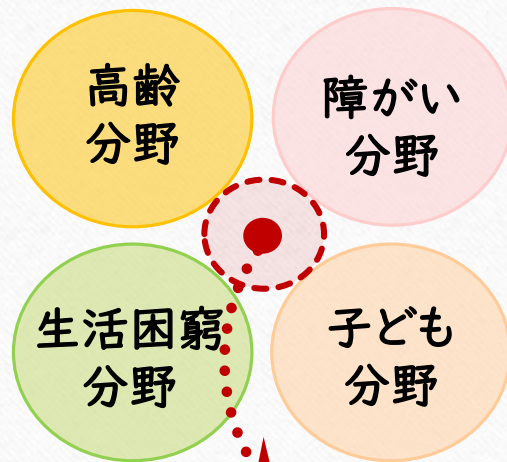
近年、地域や家族など共同体としての「つながり」が弱体化する中で、相談する相手がなく孤立してしまい、「生きづらさ」を感じる人が増加。鈴鹿市や亀山市でも、そういった世帯が顕在化してきています。



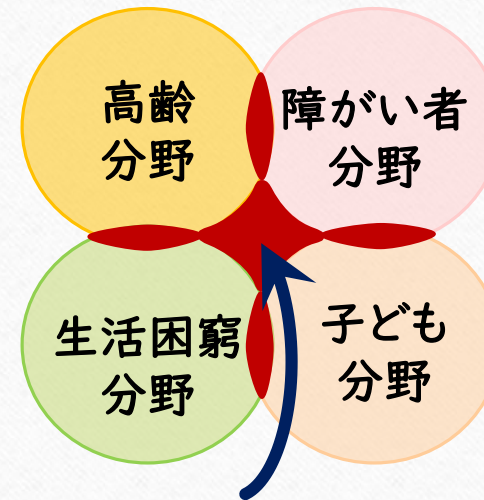
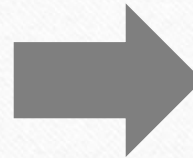
重層的支援体制整備事業の背景

「新しい考え方」による支援力の引き上げ

重層的支援体制整備事業は、新しい支援制度というよりも、既存の支援機関や専門職の負担を軽減しながら、地域の支援力も引き上げ、効果的に支援していくための仕組みであり、鈴鹿市と亀山市においても取組をすすめていくこととしました。



はざまの部分に新しい制度をつくるのではなく、**新しい考え方**で、支援のしづらさを解消したり、対象者の生きづらさを軽減したい。



分野が重なりあう部分や、制度のはざまの部分の支援体制の整備に、市と社協が中心となり「**重層事業**」として取り組みます。

重層的支援体制整備事業の背景

多様化・複雑化する地域の福祉課題

- ・高齢の親と働いていない独身の50代の子とが同居している世帯（8050問題）
- ・介護と育児に同時に直面している世帯（ダブルケア）
- ・さまざまな問題が複合化して生活が困窮している世帯（ごみ屋敷等）
- ・仕事や学校に行かず、家族以外とも交流がほとんどない「ひきこもり」
- ・障がいのある子の親が高齢化し、介護を要する世帯



生きづらさを抱えている世帯

重層的支援体制整備事業とは

包括的な支援体制を構重層的支援体制整備事業は、地域共生社会の実現を目指すため、市町村における相談支援、地域づくり支援に係る既存の取組を活かしつつ、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施し、多機関との連携の下、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対する包括的な支援体制を構築するものです。

相談支援

本人、世帯の属性にかかわらず相談を受け止め、多機関の協働による課題の解きほぐし、アウトリーチも含め、継続的につながり続ける伴走支援を行います。

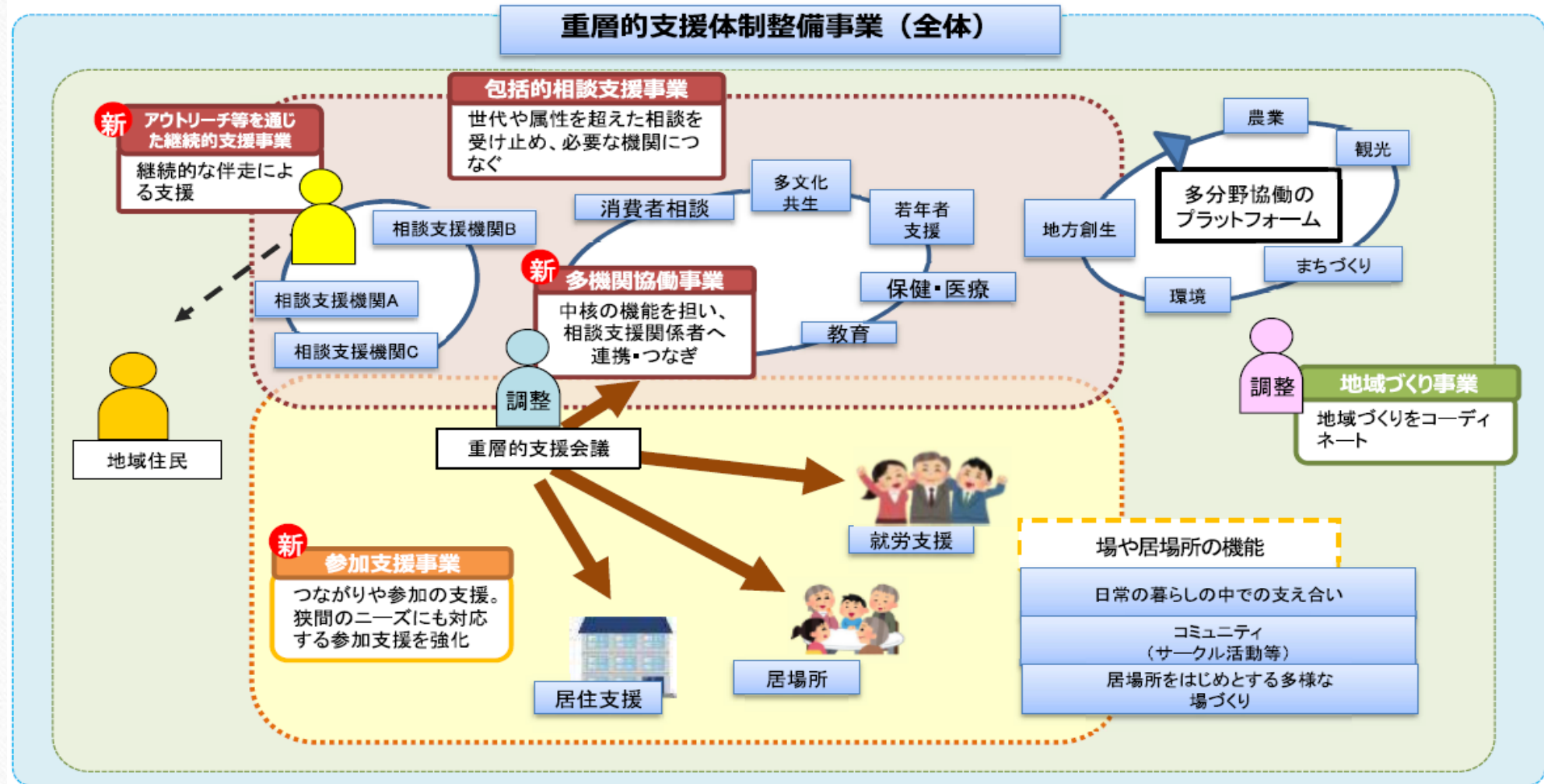
参加支援

社会とのつながりを回復するため、本人のニーズ等を踏まえ社会資源を活用した多様な支援を行います。

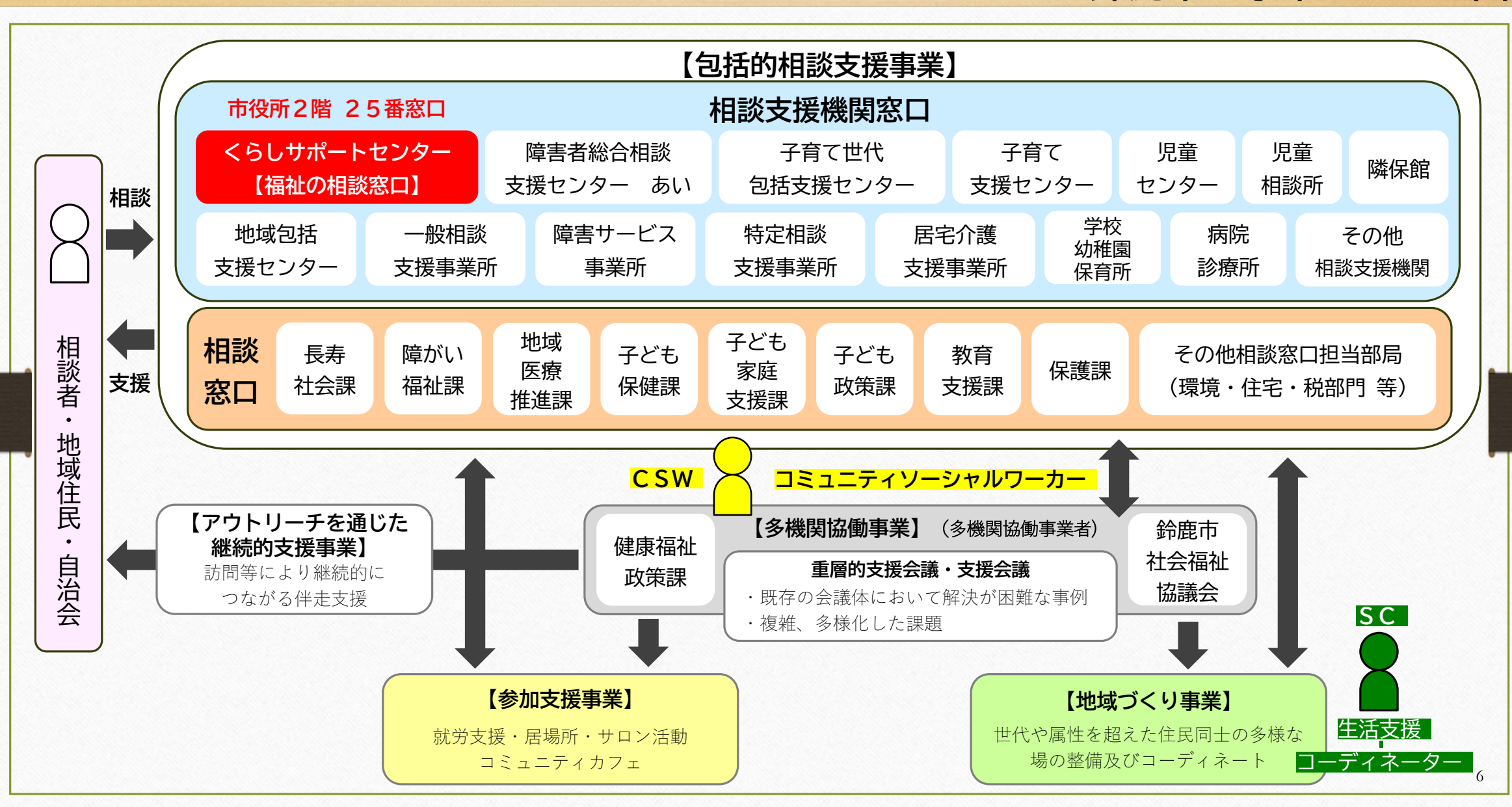
地域づくり支援

世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場所や居場所を整備します。

厚生労働省の示す事業のイメージ図



鈴鹿市の事業イメージ図



むすび

これまで、もう一步、手が届かなかったケースにみんなで。

重層的支援体制整備事業をゼロからスタートすれば
途方もない事業となってしまいます。

まずは、今ある仕組みの中から、受け入れ対象者を増やしたり、
好事例を参考に、地域で同様の社会資源がないか探るなど、
できるところから改善し、
支援の輪をつなげていくことが大切だと考えます。

鈴鹿市では令和6年度から重層的支援体制整備事業がスタートしています。
事業を進める中で、支援機関や相談窓口との調整を重ねて
地域関係者の方々のご協力をいただきながら、事業を進めていきますので
皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

